

月刊 しばうら

2017年 1月号

謹んで新年のご祝詞を申し上げます
 旧年中は格別のご厚情を賜り
 有り難く御礼申し上げます
 本年も変わらず御指導ご鞭撻を
 お願い申し上げます

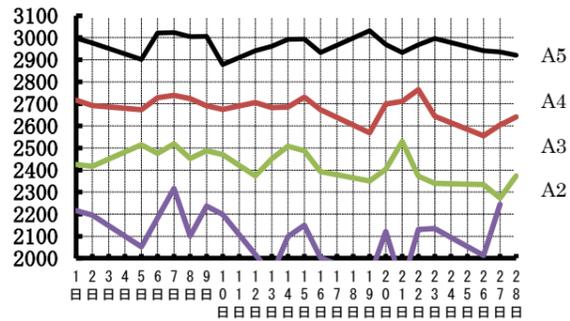
平成二十九年元旦

大動物事業部

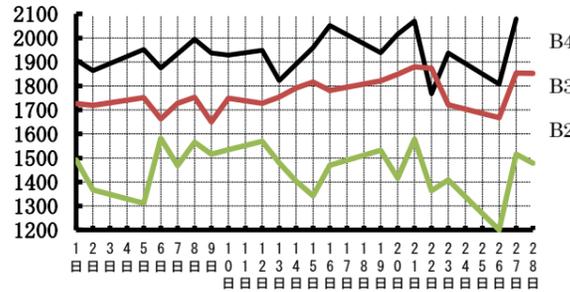
＜12月の相場動向＞

最需要期に入り和牛去勢の牛枝肉価格は、A5等級以外の規格で前年割れとなり、前月比でも同A2・3等級で小幅安となった。上物規格については、ギフト等の需要が好調なこともあり高値に張り付いている。一方、交雑牛は前年対比では実績を下回ったが、B3・4等級では、和牛に比べ供給量が潤沢にあることや、和牛からのシフトする動きなどで今年の最高値の相場となった。

和牛去勢 日別相場表 (12月)



交雑去勢 日別相場表 (12月)



| 和牛去勢月平均 | 前年同月比 | 前月比 |
|-----------|--------|--------|
| A5 2,977円 | 101.7% | 102.1% |
| A4 2,693円 | 99.1% | 101.7% |
| A3 2,433円 | 95.6% | 99.1% |
| A2 2,118円 | 89.3% | 95.4% |
| 交雑去勢月平均 | 前年同月比 | 前月比 |
| B4 1,940円 | 99.1% | 107.5% |
| B3 1,759円 | 98.2% | 106.2% |
| B2 1,455円 | 92.9% | 99.3% |
| 乳牛去勢月平均 | 前年同月比 | 前月比 |
| B3 円 上場なし | | |
| B2 889円 | 102.8% | 81.6% |

＜1月の全国出荷頭数予測＞

家畜改良センターの個体識別データから予測される平成29年の出荷頭数は、前年比1%減の104万3,700頭前後と予測している。黒毛和種は4%減の42万8,000頭前後と試算している一方、交雑種は10%増の24万9,000頭、乳用種は2.5%減の35万8,000頭と予測している。よって平成29年の出荷頭数は、黒毛和種の減少傾向が続く半面、交雑種は大幅な増加が見込まれ、わずかな減少と予測している。

農畜産業振興機構によると、1月の出荷予測頭数は、0.6%減の7万8,500頭と予測。品種別にみると和牛は4.6%減の3万100頭、交雑種は9.1%増の1万8,700頭、乳用種が2.4%減の2万8,400頭としている。

東京食肉市場の1月と畜頭数は6,300頭を予定しております。

＜1月の牛枝肉相場見通し＞

年明けの補充買いなどで一時的に活発化しても、1月は閑散期であることや、牛枝肉価格の高騰による消費者の牛肉離れや年末年始の家計出費などの影響による消費減退などが懸念される中で需要の期待は薄い。ただ全国的に出荷頭数が少ないなかではあるが、全体的には弱保合いの相場展開か。

| 和牛去勢 | 価格予測 | 交雑去勢 | 価格予測 |
|------|-------------|------|-------------|
| A5 | 2,800～2,900 | B4 | 1,750～1,850 |
| A4 | 2,600～2,700 | B3 | 1,650～1,750 |
| A3 | 2,450～2,550 | B2 | 1,450～1,550 |
| A2 | 2,050～2,150 | | |
| 乳牛去勢 | | | |
| B3 | 1,150～1,200 | | |
| B2 | 1,000～1,100 | | |

＜1月の牛肉輸入量予測＞

財務省の貿易統計による11月の牛肉通関量は前年同月比22%減の4万3,702tと前年を下回り、前月比でも2,400tほど減となっている。内訳は、チルドは15.0%増の2.1万t台と4カ月ぶりに2万t台の輸入となった。フローゼンは14.3%減となっている。

農畜産業振興機構による1月の牛肉輸入数量予測では前年比24.0%増の3万4,100tと予測している。内訳はチルドが出荷頭数の減少により豪州産の減少が見込まれる一方で米国産は生産量の回復に伴い増加が見込まれ16.2%増。フローゼンは在庫水準が低いため、豪州産・米国産とも前年を大幅に上回ると予測している。

| 輸入牛肉通関量 | | 11月 | 前年同月 | 前年同月比 |
|---------|-----|--------|--------|--------|
| チルド | 豪州 | 13,795 | 14,399 | 95.8% |
| | 米国 | 6,170 | 9,502 | 64.9% |
| | その他 | 2,591 | 2,405 | 107.7% |
| 合計 | | 22,556 | 26,306 | 85.7% |
| フローゼン | 豪州 | 10,340 | 11,621 | 89.0% |
| | 米国 | 9,759 | 5,955 | 163.9% |
| | その他 | 1,047 | 813 | 128.8% |
| 合計 | | 21,146 | 18,359 | 115.0% |

単位：t

出典：食肉速報

小動物事業部

食肉流通統計によると、11月の全国と畜頭数は146万1,958頭(前年同月比103.7%)となり前年より増加した。

また、11月分の豚肉通関実績は、総量で7万6,374t(前年同月比116.3%)と前年より上回った。うちチルドが3万139t(同105.6%)で内訳は、米国が1万7,440t(同103.1%)、カナダは1万1,731t(同109.7%)、メキシコが966t(同104.5%)となった。フローゼンは4万6,235t(同124.6%)と前年を大幅に上回り、デンマークが1万2,542t(同122.5%)、メキシコが6,222t(同126.2%)、米国が5,782t(同158.1%)、カナダが3,190t(同114.8%)となった。

＜12月の豚取引の推移＞

| 上旬 | 全国と畜頭数 | 上物価格 | 中物価格 | 上場頭数 |
|----|--------|------|------|-------|
| 1日 | 69,100 | 533 | 506 | 1,001 |
| 2日 | 70,900 | 534 | 528 | 1,029 |
| 5日 | 67,800 | 576 | 569 | 798 |
| 6日 | 70,000 | 553 | 527 | 1,075 |
| 7日 | 70,000 | 541 | 515 | 761 |
| 8日 | 70,000 | 535 | 506 | 883 |
| 9日 | 70,200 | 560 | 526 | 708 |

上旬の全国と畜頭数は1日あたり6万9,700頭と前年を上回る頭数であった。当市場においても平均893頭と前年を上回る上場頭数であった。

いよいよ消費の最高シーズンを向かえ全国頭数も7万頭台に突入。依然として鍋物商材のバラ・肩ロースは好調で千円を超える値動き。その他アイテムも堅調な荷動きであり、輸入物の在庫も潤沢ではなかった。当市場の上物価格は550円を中心に前後で推移し、中物価格は500円台をキープした。

| 中旬 | 全国と畜頭数 | 上物価格 | 中物価格 | 上場頭数 |
|-----|--------|------|------|-------|
| 10日 | | 555 | 529 | 639 |
| 12日 | 69,300 | 525 | 504 | 865 |
| 13日 | 72,200 | 552 | 512 | 883 |
| 14日 | 72,600 | 519 | 491 | 754 |
| 15日 | 72,200 | 509 | 473 | 1,031 |
| 16日 | 74,400 | 514 | 490 | 942 |
| 19日 | 72,600 | 521 | 492 | 786 |

中旬の全国と畜頭数は1日あたり7万2,200頭と前年を上回った。当市場は1日平均840頭と前年を下回った。

好調なバラ・肩ロースの値動きがさらに強くなった。一方、好調であったスソ物も含め、その他アイテムの荷動きは鈍くなってきた。輸入物は通関遅れの影響で品薄感が増す状況であった。いよいよ全国頭数が本格的に増えてきた中、当市場の上物価格は500円台をキープする形となった。

| 下旬 | 全国と畜頭数 | 上物価格 | 中物価格 | 上場頭数 |
|-----|--------|------|------|-------|
| 20日 | 75,500 | 552 | 516 | 930 |
| 21日 | 77,200 | 523 | 505 | 784 |
| 22日 | 79,000 | 515 | 486 | 1,059 |
| 23日 | 71,400 | 516 | 480 | 1,094 |
| 26日 | 82,500 | 526 | 491 | 1,001 |
| 27日 | 67,300 | 552 | 514 | 1,345 |
| 28日 | | 561 | 487 | 1,094 |

下旬の全国と畜頭数は、平均7万5,500頭と前年を上回った。当市場の上場頭数も平均1,040頭と前年を上回った。

学校給食が終了しスソ物の荷動きが軟調となった。また、年末用の手当も終了を向かえる状況であったが、バラと肩ロースの値動きは依然として高水準保つ形となった。

輸入物に関しては通関遅れが解消されず、産地によってはタイトな状態になるものも出てきた。

当市場の相場展開は多少の中だるみが見られたものの上

物価格は500円台をキープし、中物平均価格は497円で2016年を終えた。

＜1月の豚枝肉相場見通し＞

農水省による1月の全国と畜頭数は、141万7,000頭(前年同月比105.0%)と予測しており、一日当たりの頭数は約7万9,000頭である。当市場の1月の集荷予定頭数は1万8,000頭となっており、一日当たりでは約1,000頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構による1月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万1,500t(前年同月比97.4%)の予測となっている。内訳はチルドが2万8,000t(同98.3%)、フローゼンは4万3,500t(同96.9%)の予測である。

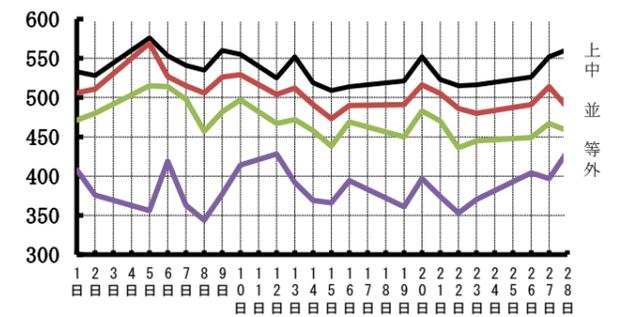
また10月における豚肉推定在庫量は、国産品が1万7,560t(前年同月比109.9%)、輸入品は14万6,126t(同98.7%)となり合計16万3,686t(同99.8%)となった。推定出回り量は14万9,881t(前年比93.4%)で前年を下回った。うち国産品は7万4,409t(同95.1%)輸入品は7万5,472t(同91.7%)であった。国内生産量は7万4,439t(同94.2%)と前年を下回った。

12月の全国と畜頭数の動向からみて、1月の全国頭数は7万頭台後半を安定して推移すると予測できる。加えて輸入物の通関遅れが続く状況が解消してきた場合、市中には相当量の現物が出回ることになる。

年明けということもあり中旬以降は家庭消費の盛り上がりは期待しにくい半面、国産牛肉の高値推移や鳥インフルエンザ問題等と代替えによる消費需要が期待できる事と消費の国産志向が依然として根強い状況である事は、国産豚肉にとって追い風になってくると考えられる。

よって、当市場の1月・上物平均価格は500円。中物460円と予測する。

豚 日別相場表 (11月)



出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>